

2022年度 第2回「教育コンテンツ提案」ワーキンググループ 議事録

開催日時:2022年12月19日(月)10:00~11:30

場 所:ZOOM 会議(オンライン)

参加者:総計20名

大学...8校18名

大学コンソーシアムひょうご神戸事務局...2名

【議事】

WG 開催にあたり、グループ長である谷村教授から挨拶があった。

1. 会社の紹介

株式会社デジタル・エデュケーショナル・サポート マネージャー前地純一氏より PowerPoint 資料に基づき、会社紹介ならびにメンバー構成(制作8名・システム2名・教育支援3名)について紹介があった。

2. 通信教育課程での支援

大手前大学現代社会学部通信教育課程での支援(制作、システム、教育支援)のうち、制作についての支援内容について詳細な紹介があった。

通信教育課程の4つの授業方法——通信授業、メディア授業、メディア授業(ライブ型)、スクーリング——のうち、通信授業における2単位15回の授業を例として、教材開発、打合せ、提案原稿作成の流れ、著作権の事前確認(2段階チェック)、チェックポイント(科目設定シートとスライド原稿の照らし合わせ)の業務内容について説明があった。

また、大手前大学独自のシステムにおいて、教員の希望する課題のタイプにあった教材機能を選定し助言を行っているとのことであった。

さらに、コンテンツセンターにおける録音ブースやスタジオの紹介もなされた。撮影された動画は担当者が事前チェックを行った後、教員による最終チェックを経て公開するとのことであった。

3. 通学課程での支援

大手前大学通学課程における支援は、スポット的なものが多く、既存動画のYouTube公開のための字幕追加作業や PowerPoint の原稿チェック、著作権処理のチェック、収録補助や編集が主な業務とのことであった。

通信教育課程と通学課程の違いとして、通信教育課程では構成についてテンプレートがあるが、通学は教員それぞれに合ったサポートをしているという。通信教育課程は開講の2年ほど前から取り掛かるが、通学課程は開講年度内での対応となるため、スケジュー

ールの的にはタイトなため、よりスケジュール管理が大切になる。また、コンテンツ制作にあたって、他部署も関わる場合に連携ができるよう留意しているとのことであった。

4. まとめ「よい教材への工夫」

良い教材とは人によって感じ方も異なることもあり、一概に説明できるものではない。そのため、制作時に大事にしていることは、「キーワード」や「補足」、「図」や「イラスト」、「字幕」の追加や教員によっては、ナレーションは自動音声を利用するなどの提案を行っている。「教材」をより「よい教材」に、履修者のことを考えた教材、丁寧な教材作りを目指しつつ、スケジュールとのバランスの中でベストをつくすことを心掛けている。

6. 質問への回答

- ・ **【質問】** 支援の指針についてお伺いしたいです。支援作業では「科目担当教員が自分でできるようになっていきましょう」を目指されているのでしょうか？ それとも、その場その場の支援になりますでしょうか？ 支援実践の際の、科目担当教員の様子を併せてお聞かせいただけたらありがたいです。

【前地氏からの回答】 教員に合わせた支援を行っています。苦手なところのサポートや、教員と相談しながら制作することが多いです。

- ・ **【質問】** オンライン授業を行うにあたって、学生側の理解がどの程度であったか、知識の定着度はどうかなどを評価していくことが重要だと思いますが、欧米でも対面型の授業と比較すると、やや学力が低下していることが報道などでも出ています。実際、コロナ禍でのオンライン授業を受けてきた学生たちの学力は、対面型で授業を受けてきた学生と比較すると、差があるように思っています。では、この違いを埋めるためにどのようなコンテンツを提供することが求められているのか、限られた時間の中でどのような工夫をされているのか、講演の中にそのヒントがあればと思います。

【谷村グループ長からの回答】 通信教育課程の場合、受講生の年代が多様であり、また一方で、海外からの受講生の場合、文献や課題が手に入らない場合もあります。受講生からの問い合わせの都度、個別対応となっているのが現状です。2022年度以降、大手前大学ではオンデマンド授業を開講することになりましたが、学生の学修状況について通信教育以上に把握が難しいと感じています。どのように対面授業との違い・差を埋めていくのか、今のところ、その課題には授業のコンテンツ外での対応とならざるを得ないのが現状です。

【前地氏からの回答】 提供するシステム、環境にあったものに修正することはなかなか難しいです。いつも以上に意識して制作すると分かりやすいコンテンツになるのではないのでしょうか。

7. 参加者との質疑応答

- ・ 通信教育のコンテンツ制作の工夫について
【回答】当初の通信教育課程のコンテンツ制作は教科書ありきだったが、やがて教科書なしでコンテンツを制作する方向性に転換したため、コンテンツの質を担保するため、以下の方法がとられています。
 - スライド資料のテンプレート化
 - 著作権チェックのフローの最適化
 - コンテンツの制作スケジュールを担当教員が事務方と一緒に進める方法をとるように(→安定的に制作していくことが可能に)
- ・ 映像コンテンツでは具体的にどのような工夫がなされているか？
【回答】e-ラーニング科目(通信授業、メディア授業)の基本的な授業構成では、1回の授業にあたり、3、4節程度の構成になりますが、通信教育課程のコンテンツでは1節ごとに動画を分けて提供しています。また、節ごとに「まとめ」をつくっていただいています。1節あたりの時間は15分程度。長くても20分、30分までには抑えることを念頭において教員に制作いただいています。

以上